

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～歯磨き粉の出し方を・・・間違わないように～

スマホやネット、SNSにおけるトラブルや被害が年々増加するとともに、低年齢化が進んでいます。次のお話は15歳の娘と母親とのやりとりです。もうすぐ、高校に通う娘に贈ったアドバイスがとても分かりやすかったので紹介します。

高校への入学を控えたある日、母が娘にこんなこと言いました。

●母：「このお皿に、この歯磨き粉をいっぱい出してみて」

ちょっと不思議に思いながらも、言われるがままに歯磨き粉をお皿に出す娘。お皿にこんもりと盛られた歯磨き粉を見て満足そうな母親は・・・
続けて娘にこうリクエストします。

●母：「じゃあ、次はこのお皿に出された歯磨き粉をチューブに戻してみて」

○娘：「・・・そんなの無理よ！」

無理ありません。一度出し切ってしまった歯磨き粉をチューブに戻すことなどできないからです。
すると・・・

母親は「なぜこんなことをやらせたのか」の真意を語り出します。

●母：「よく覚えておいて。このお皿の上の状態が、あなたの今後の

人生だということを。あなたはもうスグ高校生。

だから自分の発言には責任を持たなければいけません。」

「あなたがこれから先、成長すればするほど、言葉で相手を傷つけたり、侮辱したりするかもしれません。」

もちろん、反対にあなたが言葉で相手を癒したり、尊敬の念を示したり、誰かに愛情を伝えることもできると思う。ときには言葉の使い方を間違ってしまうこともある。」

「でも、この歯磨き粉のように一度口から出た言葉は、もう心の中に戻すことはできない。」

「だから言葉を発する時には慎重に、思慮深くならなければダメ。」

「あなたが発する言葉であなたの人生が決まると言っても過言ではない。」

.....

「あなたは優しさと思いやり、人を哀れむ気持ちを持っている。だから、どうか言葉の使い方を間違わず、誰かがあなたを必要としていたら迷わず優しく接してあげてほしい。」

「あなたにはそれができるのだから・・・。」

親交のある京都の中学の先生の通心（信）より



母は娘に言葉の重要性を知ってほしかったのです。

小学生のうち「うっかり口にしてしまった言葉」を周囲の人が許してくれたかもしれません。

でも中高生になり、大人として扱われるようになれば、間違っただけの言葉を許してくれないかもしれません。

もちろんSNSやネット上でのやりとりも母親が言っている「言葉」です。

娘の言葉が歯磨き粉ならば、母の言葉もまた歯磨き粉です。

出し方さえ間違えなければ、とても役に立つ歯磨き粉のように、きっと娘の心には母の言葉がしっかりと届いたのではないのでしょうか。